

北区 女性だより

Azalea

アゼイリア



- 「夢と想」が織りなすステージ活動
水織ゆみさん（岸町1丁目）
- VOICE
- 北区婦人問題懇話会提言（要約）
- 4月10日～16日第43回婦人週間
- 聞き書き自分史
飯田 志づ子さん（田端3丁目）
- 北区リサイクル事業担当

オペラでも、ミュージカルでもない、ひとつの叙事詩のような

「夢と想」が織りなすステージ活動

水織 ゆみさん(岸町1丁目)



「40歳で主婦から歌手へのとらばーゆですから、女がこれからの長い人生に生きがいをもってやっていく時代の代表選手みたいにいろんなかたちで紹介されています、北区のみなさんは、もうあきあきしているんじゃないかしら」。

大学を卒業して一年で結婚。家事と育児に励み、小学校のPTA役員として活躍、コーラスやジャズダンスのサークル活動にも全力投球の毎日。気がつくとも30歳になっていました。子育ても一段落したことだし、テニスでも始めようかなと思っていたところ、フラメンコ教室の広告が目にとまり入会。とはいえず、独身時代に映画で見たジプシーが踊るフラメンコに感動し、いつかやってみたいとの思い

が下地にあったことも事実でした。

8年間ほどフラメンコを習っていました。その奥の深さに「趣味程度で終わっても仕方ないかな」と思い始めたところ、新聞広告でジャンソンコンクール開催を知りました。

「ちょうどカラオケが流行りだした頃で、PTAのお母さん達も一晩で数千円をカラオケに使っていたのね。で、カラオケするなら2千円で一日遊んで来よう、と思ってギター抱えておにぎり持って、ジャンソンコンクールへ行ってみたの」。声だつて特別いいというわけでもなかったし、学校時代の音楽会でも特に目立たなかった」という水織さんですが、300人ほどの応募者の中で「見渡せばほとんどがプロ」の30人の一人に選ばれ本選に。

「その時、おにぎりが縁で素晴らしいピアノストに出会ったの。ジャンソンをピアノで歌ってみた」といったら、「じゃ、伴奏してあげましょうか」といってくださって、それから始めたんです。

一年後には、日比谷公会堂のジャンソンフェスティバルに出演。「手づくりのフラメンコ衣装で出て。で、それからプロ歌手といわれているんですけども」。

パリの人達には、スペイン、闘牛、アンダルシアというオレンジの香りのする大地への憧れがあり、そうしたものを主題に歌ったジャンソンが数多くあります。そうしたジャンルの曲を発掘して紹介し、また、既存の歌詞を自分の言葉、独自の感性で翻訳して歌い、内面からの魂の訴えを表現するフラメンコをとり入れて視覚的に——水織さんならではの存在感のあるステージ構成は、聴衆を魅了させます。



ジャンソン歌手、主婦、本名・山田由美子。77年からフラメンコを習い始め、85年に応募したシュウ・ウエムラ・ジャンソンコンクールを機に、ジャンソンを歌い始める。86年、日比谷公会堂のジャンソンフェスティバルで本格的な歌手としてデビュー。ジャンソンとフラメンコがとけあったエンターテインメントな舞台を展開し、注目を集めている。

「自分の立っているところっていうのは、この地域であつて、家庭があり友達がいる。日常の中の苦しいことやつらいことを、みんなと同じに経験してその延長上で詩をつくり、歌っていかないと共感を得られないと思うの」。

20代の地域活動、30代の歌手への基礎づくり、そして40代で大きく咲いたジャンソン歌手水織ゆみさん。感性豊かな「水織ゆみの世界」を、ステージを通して楽しませてくださいます。

「アゼイリア 2号」に、みなさんからたくさんのお寄せいただきました。その中から、4人の方々のご感想を掲載させていただきます。

身辺におきた小さな出来事、心に浮ぶさまざまな思い……女性問題についてのご意見など、あなたも、ぜひお寄せください。



私は、今パートに出ています。そこで感じる事は、いろいろな人がいるのですが、各人働く喜びを知っていて、明るいです。たとえご主人と息子さんが障害者であっても、ユーモアを忘れません。

専業主婦として家に居たら、不平不満でいっぱいの日だったと思います。経済的な自立はできませんが、社会に参加する事で世界が広がりました。もっと女性の仲間の輪を、広げたいと思います。

(赤羽 鳥海初音さん)



一月四日 立春 晴
「アゼイリア」を読ませていただきました。すばらしい誌名ですね。北区に徳永瑞子様や黒田恒子様、いい方がおいででした。

夫は七十八歳の医師ですが、まだ働けますので沼津の方へ出勤しました。が、時々病人のようになりまので、いろいろ気をつかいます。(私の)外出をいやがりまので、出席したいと思っています。若いご婦人が、熱心に北区のことを考えていてくださるって心づよいです。

(中十条 鈴木すみさん)



最近、女性の地位向上のために社会に参加する女性の数が、ふくれ上っているようです。役所でもこのような企画を立ててくださり、さらに女性行動圏を広げてくださろうとしています。それは大変良いことだと思いますが、ちょっと待ってくださいと私は言いたいのです。それぞれの家庭の中味の方は大丈夫ですか？ 小さい子供をほうっておいていませんか？ ご主人とのコミュニケーションは出来ていますか？ 暖かい家庭はありますか？

そこで私は思うのですが、やはり子供が小さい内は、自分も充電期間のつもりで子供にかかわってほしいと思うのです。それからでも、充分遅くはないと思います。子育ても中途半端、身のまわりのことも出来ずして、社会に何のために参加するのでしょうか。それなりの教養と受け皿を身につけ、その時期が来たら飛び出してほしいと思います。

私は、今、充電時の終わりにさしかかりました。さらに視野を広げ、社会のお役に立てることを考えています。この手紙は、その一歩です。

(浮間 多田孝子さん)



「婦人週間のつどい」に早速参加したいと思い、日時を確かめたら、ウィークデイの昼間なのでがっかりしました。

私はフルタイムで働いていますので、なるべくなら、土、日にしていただけたら有難く思います。

(滝野川 堀越康子さん)

浮間のさくら草

浮間さくら草保存会のみなさんが、丹精こめて育てている「浮間さくら草ほ場」。一般公開日は、毎年4月中旬から下旬です。かれんな花々に会いに出かけてみませんか。

北区婦人問題懇話会から提言

「女性の地位と福祉の向上をめざして」

(要約)

北区では、女性をとりまくさまざまな問題を解決し、男女共同参加型社会を築きあげる施策を、具体的に推進していくため「女性行動計画」の策定を決定しました。そのため、平成元年9月28日、「北区婦人問題懇話会」（藤原房子会長）を設置し、女性行動計画策定に当たっての基本的な考え方等についての意見を求めました。

婦人問題懇話会は、学識経験者委員3名、有識者委員9名、区民公募者委員6名で、1年3か月にわたり審議が続けられました。この間、全体会9回、専門部会（3部会）15回、部会長会4回を開催するとともに、審議段階においては関係者とのヒアリングを、さらに「婦人問題に関する意識及び実態調査」をはじめ、婦人リレー講座（3回開催）、女性日より「アゼイリア」北区ニュースなどを通して、区民の皆さんから提言に対する意見、要望、提案などをうかがいました。一方、区民の皆さんに対し、随時「婦人問題懇話会」の審議状況をお知らせしました。

提言の起草に当たっては、懇話会の全委員が起草を行い、生活に即した具体的な提言にまとめ、平成2年12月20日、最終の懇話会において区長に提出されました。

なお、この提言では、婦人に対応する男子の呼称がなく、また、両性の平等をめざす趣旨からは「女性」という言葉を強調する意味から、一貫して「女性」という言葉を使用しています。

4本の柱を基本に

提言は「女性の地位と福祉の向上をめざし」と題し、「政策決定への参画と計画の推進」「教育・情報」「健康・生活」「保育・就労」の4本の柱を基本に、これらを女性の地位と福祉の向上の実現を目標として位置づけています。さらに、61の提言と168の具体的項目に分けて体系化し、まとめられています。

①政策決定への参画と計画の推進

第1の柱、「政策決定への参画と計画の推進」では、「政策決定過程への参画」、「行動計画の実施および推進に向けて」をめざし、女性の行政委員会・審議会などへの参加の拡大、女性行動計画推進に向けて行動計画推進委員

会の設置、女性の活動拠点としての女性総合センター設立など6の提言と17の具体的項目が提言されています。

②教育・情報

第2の柱、「教育情報」では、「ともにつくる家庭の男女平等」、「学校教育における男女平等教育の実践および推進」、「生涯学習機会の充実と整備」、「情報相談機能の拡充」をめざしています。その内容は、父親の家庭教育学習参加機会の拡充、固定的な性別役割分業観が絵本やおもちゃなどにあるかないかなどの保育環境の見直し、男女平等教育の教育過程への位置づけと実践に向けての研究・開発、学校生活における男子優先の変革、技術・家庭科の男女共修推進のための条件整備、性の尊重と男女相互理解の学習促進、生涯学習事



業の企画・立案への女性の参画、生活自立や女性問題の理解をめざした男性の学習機会の増大、女性情報コーナーの設置とネットワーク化、公共資料・広報情報・パンフレット・ポスターなどを男女平等の視点から見直し検討する情報検討委員会の設置など、21の提言と57の具体的項目が提言されています。

③健康・生活

第3の柱、「健康・生活」では、「心身の健康の保持・増進」、「多様化する家庭生活に応じた適切な支援」、「高齢者とその介護者が安心して暮らせる施策」、「地域活動への参画促進」をめざしています。そのために、総合的健康管

理体制の確立、乳幼児を持つ母親および高齢者の介護者に留意した施策、性的被害や性に関する困難に直面した女性への支援、体育施設の充実、女性スポーツリーダーの養成とリーダーバンクづくり、ひとり親家庭の女性の自立促進と援助、女性の自立への支援、育児に関する支援策の拡充、家庭内暴力に悩む女性への対策、男女共に介護責任を負う社会システムへの整備、介護の悩みや疑問などに対する相談体制、介護サービスに関する情報提供、高齢女性のデイケア通所サービスをうけやすくする仕組みの整備、福祉機器の貸し出しと改造への支援、ボランティア活動に参加しやすい仕組みの開発など、22の提言と68の具体

的項目が提言されています。

④保育・就労

第4の柱、「保育・就労」では、「保育事業の多様化」、「もうひとつの住まい」としての保育所、「自営業に従事する女性の地位向上」、「内職相談の拡充」、「雇用者として働く女性のための施策」、「女性の就労に関する情報の提供」をめざしています。そのために、乳幼児保育の月齢引き下げなどを乳児保育の拡充、女性の勤務状況に応じた保育時間の弾力化、緊急保育の拡充、企業内保育所の奨励と無認可保育所への助成、子供にとって家庭とならぶもうひとつの住まいとしての保育所の整備、自営

業に従事する女性の地位向上、状況変化に対応できる内職相談の拡充、雇用における男女差別についての啓発と改善、福祉施設で働く職員の地位向上と待遇改善、女性のための就職情報の提供など、12の提言と26の具体的項目が提言されています。

盛り込まれている 特色ある提言

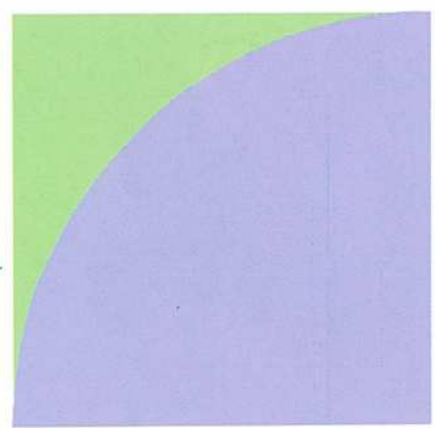
これらの提言の中には、行政組織の体制づくり、女性の学習・活動・情報基地としての女性総合センターの設立、幼稚園や保育所における男女平等教育の重要性、学校慣行の見直し、親・保育者・教員が新しい男女の関係性をつくり出す教育環境、自主グループへの援助、男性に対する女性問題解決のための事業、用語の検討やポスター・広報など女性の視点にたった情報づくり、乳幼児期からの父親の育児への参加など男性が進んでかかわれるような仕組み、家庭とならぶ「もうひとつの住まい」としての保育所、自営業および内職者など就労形態別に働く女性のための施策など、特色のある提言がみられます。

区は、この提言や区民のみなさんの意見要望などを参考にして、女性行動計画の策定を進めています。



4月10日から16日まで 第43回婦人週間

しなやかに個性、のびやかに女と男ひとひと
性にとらわれず いきいきと暮らせる
時代を築こう



今後、やや将来に目を転じ、平成3年度以降5年程度を目標に、新たなテーマを設定した活動を展開していくことになりました。テーマ設定の基本として、女性の地位向上の目的は、男女が性にとらわれずいきいきと暮らすことのできる社会を創造すること、また、こうした社会の実現のためには女性だけではなく男性とともに努力することが不可欠であるという考え方に立っています。

第43回婦人週間は、こうした考え方のもとに、女性、男性を問わず、各個人が個性を發揮し、のびやかに暮らすことのできる社会の実現に向けて努力していくことを目標に実施されます。

我が国の女性が、歴史上初めて参政権を行使した昭和21年4月10日。労働省ではこの日を記念して、昭和24年以来、4月10日からの1週間を「婦人週間」と定め、女性の地位向上のための啓発活動を全国的に行っています。

テーマは、「性にとらわれず いきいきと暮らせる時代を築こう」です。国や関係機関及び団体などを中心に、女性の地位向上をめざすさまざまな事業が行われる婦人週間です。機会をとらえて参加し、また、女性をとりまく問題について改めて考えを深められてはいかがでしょうか。

昭和50年の国際婦人年とこれに続く「国連婦人の十年」以降、女性の地位向上のための法律や制度の整備が行われ、制度上の平等はかなり達成されてきましたが、しかし、事実上の平等の達成が、今後の大きな課題となっています。

このため、昭和61年度からの5年間は、「女性の能力や役割についての固定的な考え方を見直そう」をテーマに、足もとをふみ固める活動が実施されました。



聞き書き自分史

うちあたりの商売は、昔は女の働きが半分でしたね。 商店街の奥さんたちも、みんな良く働いてました。

飯田 志づ子さん(田端3丁目)

霜降橋から田端方面へぬける谷田川(現在は暗渠になっている)沿いに、商店ができた。めだ大正15年。福井から上京した飯田さんの両親が、この地に店を構えました。

「日本人が口へ入れるものといえば、まず野菜だから、といって父が八百屋を始めたんです。初めは、大八車の引き売りからやりました。飯田さんが、丁度15歳のときでした。

「ここに越してきたときは、商店街の通りはもっと細い道で、商店が5〜6軒しかありませんでした。その後、どんどん店が増えてね。みんなで田端銀座って名前にしよってね。銀商会という商店組合をつくったんです。田端駅方面の高台や神明町(文京区)の高台の住宅地から下ってくると、ちょうど良い位置にある田端銀座商店街は、安くて充実した品ぞろえで、日用品を求める買い物客でにぎわいました。

「小さい時から商売が好きでしたから『ねえちゃん八百屋』なんていわれました。店に私がいないと、『どうしたの』なんてお客さんにいわれました。

結婚は昭和6年。昭和初期の商家の主婦にとって、お店を切り盛りすることがまず第一。朝4時頃から仕入れに出る夫を送りだした後、手早く家事をこなして店に出ました。

「ご飯を食べてますでしょ。お客さんがいらつしやって、『いらつしやいっ』って店に出て、またもどって食べていっご飯を食べたんだか、いつ終ったんだかわからない。店先にたらいを出して洗濯しながら店番したり……。ですけれど親が忙しくしておりますと、子供も良

くしたもので。うちなんて7人おりましたからね。一緒になって良くやってくれました。品物が売れ残りそうだと思うと、同い年の店員さんと競争で近所を回って訪問販売。『今みたいにホームレン草や小松菜を、つまみたいにしないで主のおかずにしましたからね。だからとても良く売れましたね。』

配達の白菜を車に積んで、その上に子供を乗せて配達に歩いたこともあったとか……。『具合が悪いかなと思っても、店へ出れば治っちゃうんです。お金お金つてあくせくしくても、働けば自然にどうにかあった時代でした。』

威勢が良くていきいきと働いた飯田さんは、商店街にとっても、胆っ玉かあさん。的存在でした。『隣の八百屋のおかみさん、一番こわかったよ。遊んでるとおこられちゃうんだから。かつて隣の魚店に勤めていた方が、いまでも口ぐせのようにこう昔話をするそうです。』

『隣の若い衆だつて自分の店の若い衆だつて、ほとんど自分の子供たちと同年輩。ですから、子供が大勢いるのと同じでした。』地域

の人びとの心がかよいいあい、助けあつて暮らしていた懐かしい情景が目に浮ぶようです。

昭和45年に、やさしくて働き者だった夫を亡くした後、店を継いだ長男を助けて最近まで店に出ていた飯田さんですが、現在は隠退。3年がかりで百観音詣りをしたり、花柳流の日舞のけいこに励んだり毎日です。海外旅行も大好き。

「香港やハワイは、もう3回ずつ行きました。ハワイもだんだんつまらなくなりましてけどね」と話す80歳。これからの自己史が楽しみです。



ハワイにて(昭和30年頃)：左が飯田さん



田端銀座商店街「いいだや」店頭で

北区 リサイクル事業担当

リサイクル文化の創造をめざして

北区は、北区基本計画において「リサイクル文化の創造」を掲げ、低エネルギー、省資源の条件の下でも、本場に豊かな生活を送れる道の追求を進めてきました。

現在、地球環境の保全が世界的に問われるなかで、区民のみなさんの資源再利用、リサイクルへの関心が高まっています。

こうした状況をふまえ、区は新たな推進体制の一環として、平成3年1月1日から「区民部 リサイクル事業担当」を設け、リサイクル事業の推進へ積極的な取り組みを開始しました。

区民のみなさんのやる気と協力あつてのリサイクルです。もう一度、足元から暮らしを見直し、ものの生命を活かした「リサイクル文化」を創りだしていきます。



団体によるリサイクル活動



缶つぶし機

リサイクル事業担当が推進力となつて進める平成3年度の主なリサイクル事業は、▽リサイクル活動の実態調査

▽リサイクル活動P.R.事業

▽リサイクル活動に対する支援事業です。

リサイクル活動の実態調査

区民参加のもとに実践的な調査活動

調査を進めるに当り、「リサイクルモニター」を公募していくと同時に、町会、自治会等地域のリサイクル活動団体、企業、リサイクル関連業界並びに関係官公庁による「リサイクル推進検討会議」を設置。ここでの討議のもとに、北区で行われているリサイクル活動の実態を把握していきながら、具体的に実践的なリサイクルシステムをつくりあげていきたいと考えています。

リサイクル活動のP.R.

リサイクル情報紙の発行・「紙」シンポジウムの開催

リサイクルについて、広く区民の方のご意見とご協力を得ていくために情報誌を発行していきます。

また、洋紙発祥の地「北区」として、紙をテーマにしたシンポジウムを開催します。

月1回の業者による回収



リサイクル活動に対する支援事業

缶つぶし機の貸与を通じてリサイクル活動団体の連携を図る

リサイクル活動団体に、缶つぶし機を貸し出していきます。利用については、地域で工夫し、協同で利用していただきます。

☎3908-1111 (内2450)

リサイクル事業担当

リサイクル事業担当



編集後記

アゼイリア第3号の発行が今年度最後の仕事となりました。この一年間、皆さんは女性問題をどのように受けとめられたでしょうか。

婦人問題懇話会からの提言の第一番目は、「区の政策や方針を決定する場への女性の参加を拡大する」でした。女性の意思や行動が問題解決の基礎になっていると思われる委員会に、女性委員がだれもいないところもあります。その不自然さを見つめ直すことから女性行動計画づくりを始めています。

「セクハラをもうしないよと手をにぎり」というサラリーマン川柳がありました。

北区の行政用語が「婦人」から「女性」に統一されます。何が女性問題なのか、どこがセクシャルハラスメントなのか、身の回りのことから見つめ直してみませんか。

アゼイリア 3号

北区女性だより

発行/東京都北区

企画・編集/総務部総務課

☎3908-1111

(内2220)

制作協力/鯨吼社

